

平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果

国立大学法人兵庫教育大学

1 全体評価

兵庫教育大学は、教員の資質能力の向上に対する社会的要請に応えるため、学校教育を中心とした理論的、実践的な教育・研究を進めるとともに、教育諸課題に対応する教員の力量形成を支援し、我が国の教育の発展に寄与することを基本理念としている。第2期中期目標期間においては、実践的指導力を持った教員の養成と、資質・力量を備えた専門職業人たる優れた現職教員の育成とともに、教育実践学の高度な研究・指導能力を持った人材の輩出等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、「教員養成スタンダード（大学院）」を策定したほか、学校教育のグローバル化を推進する教員のための大学院のコースカリキュラムを開発するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第2期中期目標期間においては、これからの時代に求められる教員としての資質能力の向上を図るため、大学院カリキュラムの検証・充実や教育内容の改善を行い、教師教育スタンダードを構築することを目指した「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を定め、積極的に取り組んでいる。

平成27年度は、全コース共通の「基礎部分のスタンダード」と各コース別の「専門性の実現に向けたスタンダード」の二つの枠組で構成される、大学院レベルの高度な教員養成に対応した「教員養成スタンダード（大学院）」を策定し、平成28年度入学者から適用することとしたほか、兵庫県や神戸市教育委員会の関係者と、これからの教員像に関する意見交換を行う「教員育成に関する懇談会」を開催している。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

教職大学院改革として、現職の教育関係者の修学ニーズに応じた多様な授業を展開する「教育政策リーダーコース」と「グローバル化推進教育リーダーコース」の平成28年度の開設に向け、カリキュラム、入試方法の決定やビデオ・オン・デマンドの開発等を実施しているほか、高度な専門性を有する大学教員を採用するため、学長のリーダーシップにより設置した先導研究推進機構所属の教員等、合計9名に年俸制を適用している。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載14事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 新たな人事システムの導入

学長のリーダーシップにより設置した先導研究推進機構において、9名に年俸制を適用するとともに、年俸制適用者に対する業績評価を実施しているほか、学校現場での指導経験を持つ大学教員の割合を高めるため、新規の教員公募にあたっては、原則として学校現場での指導経験を持つ者を採用することとし、3名を採用している。

○ 研究者の人的交流を推進する海外派遣プログラムの創設

交流協定を締結している海外の大学・教育研究機関に教員を派遣することで、交流協定大学等との研究交流及び研究者の人的交流の推進及び大学の国際化を促進するため、新たに「研究者海外派遣プログラム」を創設している。平成27年度は3名を派遣し、新たな共同研究の実施や留学生の確保、研究交流の方策等に関する情報交換等を実施している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成26年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 省エネルギー化の推進

重油ボイラーによる蒸気暖房から電気式による空調機への取替えや空調設備の整備を行うなど、高効率な省エネルギー機器を導入するとともに、附属学校園においては中央監視設備の導入によるデマンド監視等により、省エネルギーを実現できるシステムを導入している。また、省エネルギーに関する啓発活動やLED照明への取替え等を行った結果、平成27年度の年間使用電力量は平成22年度比15%の削減を達成している。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 高い教員就職率を維持するための取組

教職キャリア開発センターでは、これまで実施した教員採用試験対策を分析し、筆記試験対策の充実を図る必要があることが判明したことから、外部専門講師による教職教養や一般教養の講座を開講したほか、4日間の春休み特別講座を開講し、筆記試験対策に取り組むなど、高い教員就職率の維持を図っている。

○ 大学院段階における教員養成スタンダードの策定

教員養成の高度化を見据え、高度専門職業人としての力量形成を確かなものとするため、教員としての専門性に必要な基礎的な資質能力について15項目を定めた「基礎部分のスタンダード」と、各コースが養成する人材像等に応じて3～4項目を設定し、学生自身が専門性の実現に向けて学びの目標を定める「専門性の実現に向けたスタンダード」で構成される「教員養成スタンダード（大学院）」を策定しており、平成28年度入学者から適用することとしている。

○ 学校教育のグローバル化を推進する教員を養成するカリキュラムの開発

大学院専門職学位課程において「教師教育グローバル人材育成プログラムの開発」を行っており、人材育成の在り方について、国際バカロレア実施校等のグローバル人材育成に関する教育を行う教育機関の教員等や企業の人材管理担当者等とのヒアリングで得られた情報を基に、学校教育のグローバル化を推進する教員のための大学院のコースカリキュラムを開発している。

○ すべての構成員による優れた授業を評価する制度の創設

優れた授業は教員だけでなく参加するすべての構成員の高い意識があって初めて成立するとの考えの下、授業者や受講学生等で授業改善のアイデア等を議論し、共有することにより、大学全体の授業改善を図るため創設した「ベストクラス」について、授業評価の結果や担当教員及び受講者へのインタビュー等を基に、12のベストクラスを選定している。

○ 地域と連携した講座の継続的な実施

連携協定を締結している北播磨5市1町の自治体等との連携講座については、アンケート評価や実施状況を検証し、参加者の興味を引くようなテーマの設定や現職教員の研修の一部としての活用、早期からの広報活動等、改善策に取り組んだ結果、平成27年度の受講者数については、第2期中期目標期間中最高の1,147名（12講座）となっている。

○ 教員就職状況

平成27年3月卒業者（教員養成課程）の教員就職状況は卒業者166名に対し、正規採用が71名、臨時的任用が45名で、平成27年教員就職率は69.9%、進学者等を除くと85.9%となっている。